

まず、街灯のポールの曲がりや線路の形状、自転車が人物と一体になっているような描写から、精神世界を描写したものである様に思われる。そして時分が恐らく夕方であること、人物が明るい方に向かっていることから、どこかへの帰着願望を表現しているのではないか、と思った。また、線路が走っているにも関わらずその上を走っていないことから、人とは違う生き方をしている（レールの上を歩かない）ことを意味していると考えた。

【ストーリー的な記述】

夕暮れの空の下、街灯を頼りにしながら明るい方へと向かっている（帰路についている）

自転車で向かう先は2軒の建物。夕方になり街灯もつき始めたほど、時間が遅くなってしまった。自転車で走るは子、向かう先の建物には両親が待っている。が、建物から出ている線路はどこか違う場所へ伸びている。線路の先には良くないことが待っているが親は気づかない。成長した子1人だけが気づくが距離は遠く焦っている。一刻を争うため信号なんて関係ない。走る子の近くにある線路は色を変え、何かに侵食されてしまったのかもしれない。何か大きなものかもしれないが、実際迫るのは時間で、門限に間に合わなさそうなだけかもしれない。今は向こうが明るい自分がいた場所が一番明るかったことに後で気づく。

くもった風景の中を、男の人がまっしぐらに自転車をこいでいく。
まっしぐらにこいでいくが、それはレールの上で、実は目標におかっ
てこいでいくのである。赤信号を無視して、わきめもふらず、
自転車をこいでいくが、くもった風景を照らす街灯や、目標の
1つである、家か建物は、男の人を助けてくれている。
レールは、天に向かって目標へと伸びていく。
空の上の方が、街灯の照らす黄色から、ピンク、水色とうつりかわって
いくことは、希望を表しているのではないだろうか。
青いレールが、空へと伸びていく。

道がなくなった。線路が2本みえるからそれにそって行こう。

街灯を目印にしたつもりが通り越して

しまったかもしれない（迷い？）

1本の線路が赤信号なので進めないと

思ったけれど、そちらの方が正しい方向だったかもしれない。

私の乗っているのは自転車？ うまくこげない。

この荷物を運びたいのに…

ボクは走る 自転車に乗って 周りの風景を見ながら

夜の町も自転車なら見える

列車には乗らない

ボクの走り方で ゆっくり前を向いて行こう

明るい方へ ボクの未来へ

自転車に乗って